

ちょっと気になる八王子マガジン

は ち お う じ



2021年 清風号

No.49

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

特集

わがまち八王子
探訪シリーズ

「浅川」

旧花屋旅館裏手にある古淵

浅川地域を深〜く知る！ その1

“高尾駅周辺散策コース”

高尾駅南口〜高尾駅北口

浅川地域を深〜く知る！ その2

“旧甲州街道探訪コース”

高尾駅〜小仏峠

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑮

コラム 八王子自然探訪①

私の本はこうして生まれた 其の四十九

浅川地下壕の保存をすすめる会

忘れられた浅川疏水 ― 浅川と八王子を結ぶ 高尾駅周辺を歩く

『はちおうじNPOハンドブック』 八王子市市民活動支援センター

佐藤 広
粕谷 和夫

発行

深〜く

浅川地域を知る! その1

高尾駅周辺散策コース

今回の八王子探訪シリーズは浅川地域。高尾駅周辺をぐるっと回って再び高尾駅に戻るルートと、高尾駅から旧甲州街道の面影を辿って小仏峠を目指す2つのルートを設定しました。高尾山だけではない浅川地域の魅力をご紹介します。

はちとぴ
観光☆

—特撰—



◎「浅川」の縁起

八王子市の西南部に位置する浅川地域。かつての上長房村、上柵田村が1889（明治22）年に合併して浅川村となりました。1927（昭和2）年には町制を施行して浅川町となり、1959年に八王子市に合併しました。

浅川地域は市内有数の観光地である高尾山をはじめとして、西部に関東山地が広がり、地域のほとんどが山林地帯です。山地から流れる小仏川や案内川流域の谷あいの平坦地に集落があり、その周辺に畑や水田などが広がっています。また、高尾山の薬王院有喜寺や初沢町の高乗寺といった大きな寺院もあります。

江戸時代には小仏峠を越える甲州街道が整備され、駒木野宿と小仏宿を擁していました。しかし難所であったため、1888年には大垂水峠を越える新たな甲州街道、現在の国道20号が整備されました。1901年には甲武鉄道の八王子〜上野原駅間が開通し、浅川駅（現高尾駅）が開設。その後、1927年に高尾山ケーブルカーの敷設、1967年には京王高尾線が全通したことなどによって、高尾山をはじめとした浅川地域には多くの人が訪れ、地域の観光事業も進められていきました。こうした観光地では歴史ある銘菓や農家の副業として生産される工芸品、山菜などの土産物が販売されてきました。

近年では宅地開発が進んで、イース高尾などの大規模商業施設も進出し、域内の人口は増加しています。

①大光寺



1615（元和元）年開基。1882（明治15）年の火災により、本堂などはすべて焼失したが、高尾山薬王院の薬師堂を移築して本堂とした（後に新造再建された）。庫裏は清水次郎長の客分で、高尾出身の関東綱五郎の旧宅を移築したもの。

③高乗寺



南北朝時代草創。当初は臨済宗だったが、曹洞宗の寺院として中興開山された。寺院の古文書は市の文化財に指定されている。敷地内には山王神社社殿があり、毎年夏に祭礼が開かれる。1965（昭和40）年には隣接して高尾霊園も開園。

②浅川地下壕



戦時中に金比羅山地下などに掘られた巨大地下壕。当初、地下倉庫として掘られていたが、後に中島飛行機武蔵製作所の疎開工場となった。地下壕の断面は基本的に幅4m、高さ3mのかまぼこ状で、全長は約10kmある。（本誌P10参照）

④初沢城跡



柵田城とも高乗寺城とも言われる。柵田氏が築城したとされているが、詳細は不明。高尾駅から南方に臨む標高294mの山城で、尾根に主郭等が残っている。築城年代は不明だが、15世紀末ごろと考えられている。東京都指定旧跡。

高尾駅南口～高尾駅北口



⑤菅原道真公銅像



みころも公園西側にある、台座を含めた高さ14・5mの日本最大級の菅原道真公像。大正天皇陵御治定記念事業として建てられ、1937（昭和12）年に完成。制作者は明治を代表する彫塑家の渡辺長男。そばには高尾天神社の社殿がある。

⑥はちねこ



飼い主のいない猫の問題は地域の問題と考え、その解決に取り組み団体。猫好きの一般市民がボランティアで運営。毎年チャリティイベントを開催している。毎週水・土・日・祝日の午後には予約制の譲渡会を開催。

⑦東浅川保健福祉センター



高齢者や障害者の方々をはじめ、幅広い年齢層の健康を支える施設。2階には「高齢者あんしん相談センター」高尾、1階には売店、レストランなどもある。集会所や室内プールなどは誰でも利用できる。毎月第2月曜日と年末年始休館。

⑧興福寺



雨宮秀徳が1580（天正8）年に創立。1597（慶長2）年、神奈川県愛甲郡小野村にある龍鳳寺の末寺となり、本寺第四世香山充孫によって開山された。本尊は聖観音菩薩。春にはしだれ桜、夏にはホタルが観賞できる。

⑨十二社



1649（慶安2）年創建。1870（明治3）年に十二社大権現の社名を十二社に改称した。1945（昭和20）年の八王子空襲で社殿を焼失。東京陸軍幼年学校内にあった雄健神社の社殿を遷座し、1963（昭和38）年に拝殿を造立した。

⑩東浅川交通公園



1969（昭和44）年開園。街中の道路や信号機などを再現し、交通ルールやマナーを安全に学ぶことができる。交通安全教育指導員による交通安全教室を実施しているほか、自転車などの貸し出しを行っている（使用料無料）。

ひと休み
コラム

高尾山薬王院

八王子屈指の観光地である高尾山は、古くから神仏の宿る山として知られていました。その中心にあるのが、薬王院（高尾山薬王院有喜寺）です。聖武天皇の勅令により、天平時代の8世紀ごろに東国鎮守の祈願寺として行基菩薩が開山したとの言い伝えがあります。薬王院の名称は、このときに薬師如来を本尊としたことに由来し、現在も薬師如来像は秘仏として大切に保存されています。

永和年間（1375〜79）には、山城国（現京都府）醍醐寺からやって来た俊源大徳が寺を建て直し、薬師如来とともに現在の本尊である飯縄大権現を祀りました。戦国時代には八王子城を守る重要な場所であったことから、北条氏康・氏照から150石の寺領を拝領し、江戸時代になると徳川幕府が高尾山を幕府直轄の御林山（おはやし）としました。このように山一帯の木々や寺院は手厚く保護されてきたのです。

寛永年間（1624〜44）には薬王院十世となる堯秀が再興を成し遂げ、奥ノ院不動堂などが建築されました。18世紀半ばから19世紀にかけて檀家は関東一円に広がり、高尾山信仰の発展が続きました。

明治時代になり、神仏分離令が発せられると、高尾山は寺院として存続する道を選びます。鳥居は撤去され、飯縄大権現は飯縄不動と呼び替えられました。1881（明治14）年には醍醐派から智山派に転じて、後に成



▶奥ノ院不動堂

11 高尾警察署



1995（平成7）年、八王子警察署より分離し、都内100番目の警察署として設置された。八王子の西部地域を管轄し、高尾山岳救助隊を配備しているほか、多摩御陵の警備も担っている。運転免許更新の手続きなども行う。

12 いちょう祭り事務局



甲州街道沿いのいちょう並木が黄葉する11月、追分町から小仏関所までを舞台に、市民有志の手作りの祭りとして開催される「いちょう祭り」。1979（昭和54）年から始まった一大イベントの事務作業を一手に担う。（はちとび15号参照）

13 東浅川宮廷駅跡



多摩御陵への皇族参拝用駅として1927（昭和2）年に造営された。1962（昭和37）年に市の文化施設、陵南会館に衣替えしたが、1990（平成2）年に過激派の放火によって焼失した。（はちとび34号参照）

14 甲州街道旧道



かつては道の中央に、小名路の古淵から南浅川の水を引いた水路（堀）が流れていたが、1889（明治22）年の甲州街道改修時に埋められた。現在は道の南側に水路が流れている。往時の街道の趣を感じさせる道である。

15 熊野神社



樫と櫟が根元から一本になっている「縁結びの木」がご神木。自分と想いを寄せる相手の名を書いた小石2つを根元に置くと願いが成就するという。8月の祭礼には、獅子舞が奉納されてきた。「お湯花」という行事も行われる。

16 高尾駅



1901（明治34）年開設。当時は「浅川駅」と名付けられた。代名詞ともいえる北口の社寺風デザインの駅舎は1927（昭和2）年、大正天皇大喪の際に移設されたもの。1961（昭和36）年に高尾駅と改称した。（はちとび34号参照）

田山、川崎大師とともに真言宗智山派関東三大本山の1つとなりました。1901年には現在の本堂が新たに竣工します。



▶ 飯縄権現堂

寛永年間に建築された不動堂、17世紀後半から18世紀前半ころまでに建立された仁王門、1729（享保14）年に建立されたとされる飯縄権現堂本堂、江戸時代に建立された大師堂は、いずれも都指定有形文化財になっています。飯縄大権現の使いは天狗とされているため、高尾山では天狗信仰が盛んなことも知られています。多くの伝説や信仰があり、天狗は神格化されました。また、古来高尾山は修験道の山ともいわれ、山伏による修業が重ねられていました。今もなお琵琶滝と蛇滝の2つの滝を擁し、滝修行の道場として誰でも参加することができます。（はちとび2号参照）



▶ 天狗像

ほかにも火渡り祭、写経会、精進料理の提供など、薬王院は現在も多くの人が親しみやすい体験修行を提供しています。さらに「六根清浄石ぐるま」や「願叶輪潜」といった新たな祈願の形を生み出しながら、高尾山信仰の拠点であり続けているのです。

深〜く

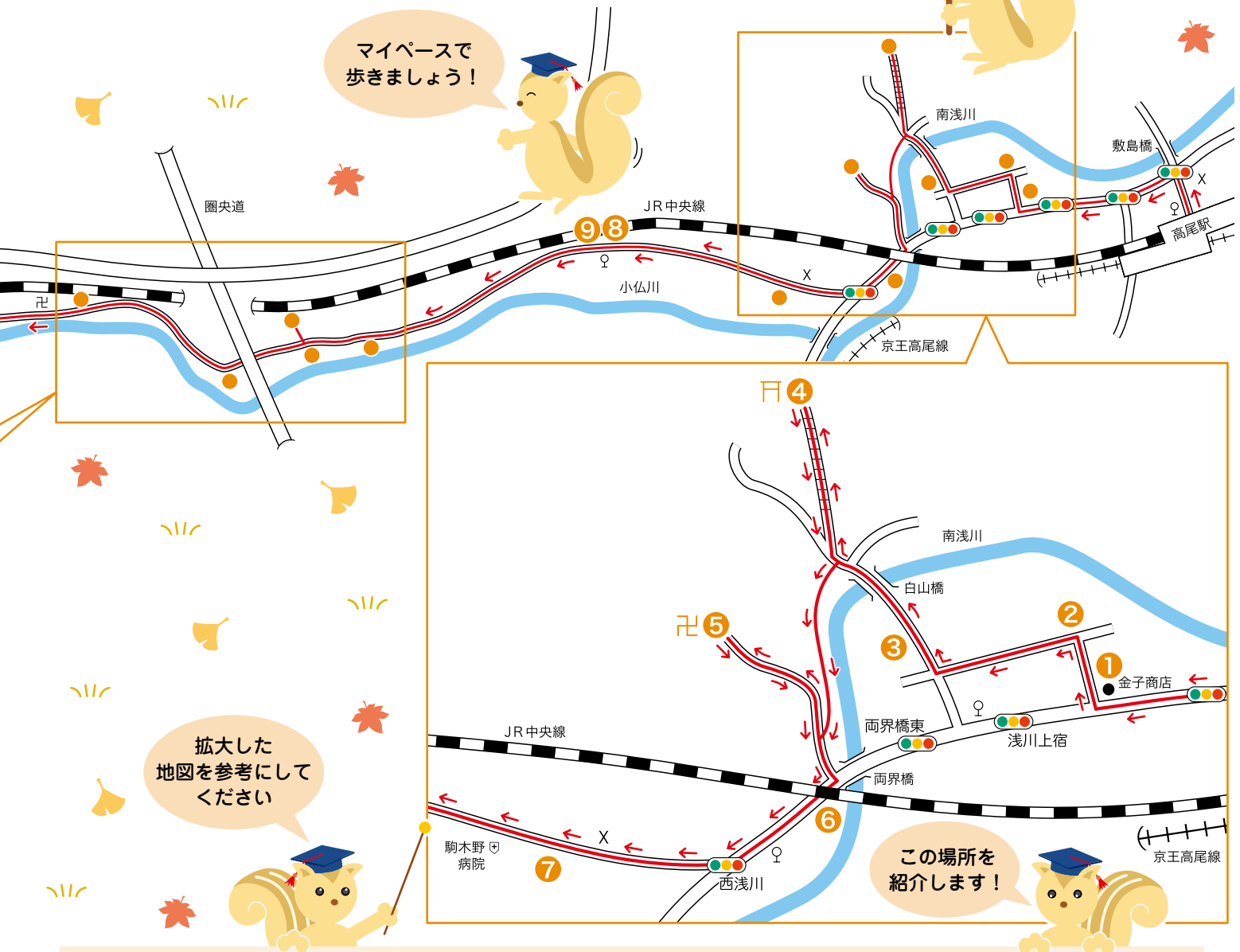
浅川地域を知る! その2

旧甲州街道探訪コース

はちとぴ
観光☆

—特撰—

マイペースで
歩きましょう!



②浅川市民センター



1986(昭和61)年開館。浅川地区住民協議会が運営し、和室や調理室、美術室、陶芸室、会議室、音楽室、地区図書室、体育室などを備える。毎年3月にセンター祭りが行われる。併設して浅川事務所、地域福祉推進拠点浅川がある。

1945(昭和20)年8月2日の八王子空襲では、旧浅川町でも甲州街道沿いの集落を中心に大きな被害が出た。川原宿の金子宅も全焼したが、庭先にある祠(稲荷)は焼け残り、金子商店の裏の敷地内に移転した現在も残されている。

①戦災稲荷



高尾駅～小仏峠

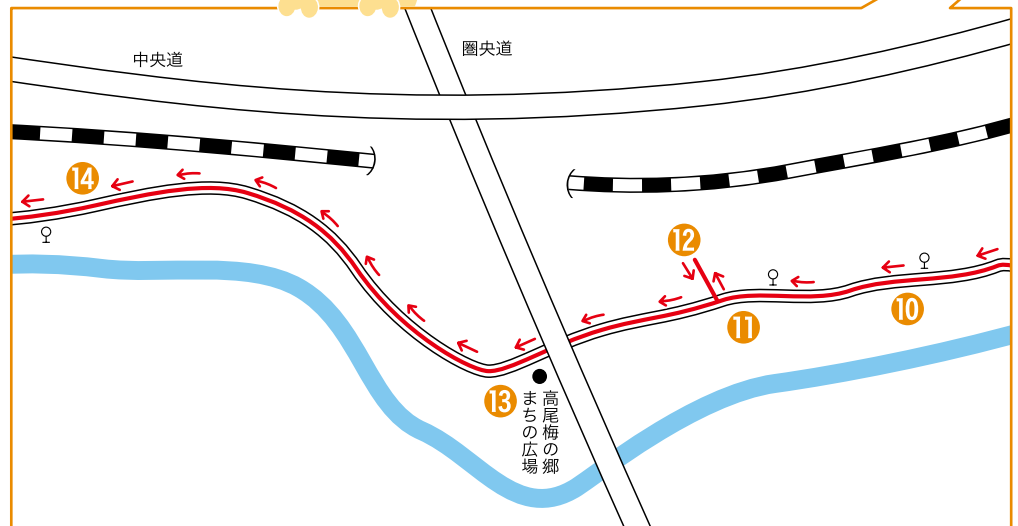
- 1 戦災稲荷
- 2 浅川市民センター
- 3 旧浅川町役場
- 4 白山神社
- 5 金南寺
- 6 旧花屋旅館
- 7 高尾駒木野庭園
- 8 小仏関跡
- 9 先賢彰徳碑
- 10 荒井町会慰霊碑
- 11 旧蛇滝茶屋
- 12 湯の花トンネル慰霊碑
- 13 高尾梅郷
- 14 するさしの豆腐
- 15 宝珠寺
- 16 小仏峠

あともう
少しだよ！

車や自転車に
気をつけて
歩きましょうね！

ここから山道に
入ります

拡大した
地図を参考にし
てください



④ 白山神社



奥宮・本殿・拝殿・神楽殿が山頂に鎮座していたが、1993（平成5）年に奥宮と本殿を山に残して、拝殿と社務所を山麓に建立した。本殿裏手には西南戦争から第1次世界大戦までの従軍者の名を刻んだ碑が建つ。

③ 旧浅川町役場



1951（昭和26）年に完成した木造2階建ての建物。1959（昭和34）年に浅川町が八王子市と合併した後も浅川支所として使用されていた。かつては浅川地区社会福祉協議会や高尾交通安全協会が入居していた（現在は移転）。

⑤金南寺



南北朝時代の1364（貞治3）年開山。この辺りの字名「小名路」の由来となっている。明治期には村役場の事務を担ったこともあった。1967（昭和42）年に本堂を現在地に新築移転。本堂には本尊阿弥陀如来像が安置されている。

⑥旧花屋旅館



両界橋際に建つ旅館跡。小説家の中里介山はここで「隣人学園」を開き、地域の人びとを集めて講話や読書会を行った（下記コラム参照）。裏は南浅川の古淵という箱庭の景勝地であり、かつてはこの辺りに旅館が軒を並べていた。

⑦高尾駒木野庭園



駒木野病院の前身、小林病院の住居兼医院として利用されていたもの。2012（平成24）年に開園。大正年間建築された平屋の母屋と、昭和初期に増築された2階建てで構成され、本格的な日本建築を楽しめる。入場無料、年末年始を除く通年開園。

⑧小仏関跡



戦国時代には小仏峠に設置されていたが、1580（天正8）年に麓の駒木野に移され、北条氏滅亡後に現在地に移された。番所は1869（明治2）年に取り壊されたが、1928（昭和3）年に国指定史跡となった。

⑨先賢彰徳碑



1930（昭和5）年建立。小仏関の関守であった落合直亮・直澄兄弟、川村光裕を讃えたもの。歌人落合直文（直亮の養子）の弟子である与謝野寛（鉄幹）が、関跡を訪れた時に詠んだ歌が尾崎行雄の筆で裏面に刻まれている。

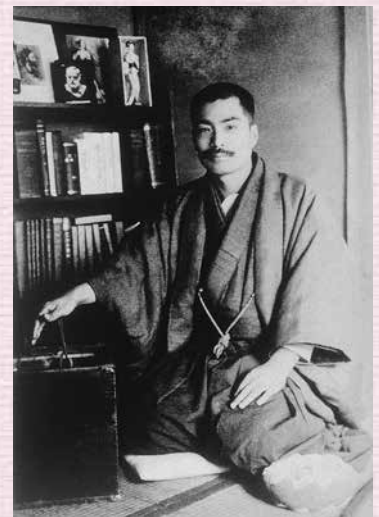
⑩荒井町会慰霊碑



太平洋戦争中、裏高尾町荒井地区から出征し、戦死した陸海軍の兵士・軍属13名の供養のため、1980（昭和55）年に地区として建立した供養塔。左右面、背面に戦死者の陸海軍別の階級、氏名、年齢が刻まれている。

ひと休み コラム

中里介山



▲1921年ころ、高尾山時代の中里介山

幕末を舞台に、虚無にとりつかれた剣士、机龍之介を主人公とした長編時代小説『大菩薩峠』。この41巻にのぼる未完の一大巨編を1913（大正2）年から1941（昭和16）年の約30年にわたって執筆し続けたのが、中里介山（本名・中里弥之助）です。

1885（明治18）年、神奈川県西多摩郡羽村（現東京都羽村市）に生まれた介山は、小学校教員となった後、都新聞に入社。キリスト教から社会主義に進み、平民新聞に寄稿していました。その合間に書き始めた『大菩薩峠』が成功し、介山は執筆に集中するため都新聞を退社。1921年には高尾山麓の二軒茶屋、旧佐藤旅館の一間を借りて執筆するようになりました。よほど気に入ったのか、翌年にはこの地に移住し、執筆に疲れると滝に打たれるなど、高尾山での生活にすっかりなじんでいきます。

介山が移住したのは、現在のケーブルカー清滝駅の奥、東京高尾病院裏手にあたる場所で、名物であった千年檜のそばです。現在、草庵跡として碑が建っている場所に六畳二間の妙音草庵を結び、『大菩薩峠』の執筆を続けました。この時期ののびやかな日々を、介山はこうのように述懐しています。

「高雄の山の千年檜の下は忘れられない。ここにはどうしても現はしきれない夢のやうなローマンスも人間苦の観照もあった」（『千年檜の下にて』より）

一方、1924年には、浅川地域の旧家である設楽政

11 旧蛇滝茶屋



高尾山参詣者のために建てられた休憩所で、今も軒下に講札が貼られている。かつて高尾山の蛇滝信仰の講中が利用し、江戸時代後期には「ぶぢや新兵衛」という旅籠だった。建物右手の蛇滝への道標は「上行講是より蛇瀧まで八丁」と刻む。

12 湯の花トンネル 慰霊碑



1945（昭和20）年8月5日、湯の花トンネルで、米軍戦闘機P51の銃撃による日本最大級の列車銃撃空襲が起こった。現在も「いのはなトンネル列車銃撃遭難者慰霊の会」が活動を行い、毎年8月5日に供養の集いを行っている。

13 高尾梅郷



関所梅林、天神梅林、湯の花梅林するさし梅林、木下沢梅林と小仏川沿いの遊歩道梅林を中心とした約4.5kmの間に、およそ1万本の紅白の梅が咲き誇る。例年2月下旬から3月中旬ころまでが見ごろで、3月には梅まつりが開催される。

14 するさしの豆腐



1955（昭和30）年創業。高尾山系の豊富で良質な地下水の恵みに育まれた豆腐づくりを続ける。木綿豆腐や寄せ豆腐、生揚げ、がんもどきのほか、おからドーナツなども販売している。毎週木曜定休。（はちとび8号参照）

15 宝珠寺



別称「だんじき寺」。境内には三度飛脚の常夜燈や都天然記念物のカゴノキがある。主幹は枯れているが、周囲を枝幹が取り巻いて1株になっている。幹周り約4m、高さ約13m、樹勢盛んで、関東地方有数の大樹である。（はちとび37号参照）

16 小仏峠



八王子市と相模原市との境にある峠で、標高548m。峠の下をJR中央本線や中央自動車道の小仏トンネルが通る。かつては3軒ほどの茶店があったが、いまは無人で荒れている。「明治天皇小仏峠御小休所趾の碑」「三条実美の歌碑」が建つ。



▲1924年、隣人学園の生徒たちと

治、料亭花屋の若主人の細川喜治、野口兵蔵らの協力を得て、日曜学校のようなものを始めました。子どもを中心とした地域の人びとを対象にして、「敬天、愛人、克己」という教育目標を掲げた「隣人学園」です。講話や読書会などを通して、介山の考えるユートピア

を実現しようと模索していました。ところが、1925年に高尾山ケーブルカーの架設工事が始まると、介山は草庵を取り壊して高尾を去ることになります。静かな高尾の環境を愛していたがゆえに、工事に伴う樹木伐採や工事の轟音に悩まされてしまったようです。

その後、奥多摩に草庵を結び、隣人学園と同じく図書室や武道場を開放した「隣人道場」をつくりましたが、奥多摩でも青梅鉄道（現JR青梅線）の工事にかかって移住することに。故郷の羽村に戻って「西隣村塾」を開くなどして、1944年に亡くなりました。

数年という短い期間でしたが、中里介山のかかわった活動は、浅川地域、ひいては市内の文化運動にも大きな影響を与えました。現在も残る建物や石碑に触れつつ、名著『大菩薩峠』を

楽しんでみてはいかがでしょうか。

※特記なき写真は『新潮日本文学アルバム 中里介山』より



▲妙音谷草庵跡の碑（編集部撮影）



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

- ◆年会費2000円（学生は500円、団体は3000円）
- ◆地下壕見学会は毎月1回開催（不定期）。詳細は会のホームページ参照。
- ◆問い合わせ先：(664) 8615（齊藤）

浅川地下壕の保存をすすめる会

戦跡の意義を掘り起こす

浅川地下壕は高尾駅の南側、金比羅山の地下など3か所に掘られた、いまでも残る巨大な戦跡です。一時は観光施設として開放されていたこともあったのですが、1990（平成2）年に市民有志が「浅川大地下壕の保存と平和資料館建設に関する請願」を提出したことにより、「戦跡」としての一面に目が向けられるようになりました。この請願は翌年に市議会でも採択され、浅川地下壕は歴史を伝える貴重な史跡として一定の理解が得られました。

しかし、その後大きな動きもありません。歳月だけが経過。浅川地下壕を公的に保存・公開し、平和資料館の建設や浅川史跡自然公園の整備を八王子市と東京都に求めるため、1997年に「浅川地下壕の保存をすすめる会」が結成されました。ちょうどこの年には「戦争遺跡保存全国ネットワーク」が組織されるなど、各地で戦跡保存の動きが活発になっていった時期でした。「いままでは戦争にかかわる活動といえば体験の継承が中心でしたが、19

90年代あたりから、モノで伝えることが大事だと考える人が増えてきたように思います」と振り返るのは、会の発足からかかわり、現在は事務局を務める齊藤勉さん。

現在の主な活動は、年4回の会報「Peaceあさかわ」の発行や、月1回の地下壕見学会の開催、秋の浅川地区文化展への出展などで、2005年には地下壕の歴史をまとめた『学び・調べ・考えよう フィールドワーク浅川地下壕』も刊行しました。「学習会や講演会などを通じて、活動を広げていきたい」と意欲を語る齊藤さん。浅川地下壕という市内屈指の戦跡から、いかにして戦争の愚かさ、恐ろしさを学び、平和の実現に寄与していくのか、模索しながら活動をすすめています。



▲地下壕見学会のようす



創刊号から第50号までが保存本として1冊に！ 「はちとび」合本のご案内

2007年4月に産声を上げた「はちとび」も、読者の皆様のおかげで、もうすぐ節目となる50号を迎えます。編集部では試行錯誤を重ねながら、いつまでも取っておきたくなるような市民の地域情報誌を目指して制作を続けてまいりました。15年間にわたって発行、配布を続ける中で、微力ながら八王子の“いま”を切り取ってこられたのではないかと思います。

このたび、1～50号までの合本を制作することにいたしました。限定生産ですので、ご興味、ご関心のある方は右記まで**お早め**にお申し込みください。



- A4、ハードカバー
- 総頁数 約800頁
- 予定価額 8000円（税込）

お問い合わせ

揺籃社
☎ 042-620-2615
✉ info@simizukobo.com